


分野	31	地域活動・市民活動	通番 51
施策	311	自治活動の促進	
5年後の目標		地域住民の間に日常的な対話が増えてつながりが生まれ、地域の課題に市民が主体的に向きあい行動している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	自治会活動支援事業		会計	款	項	16,759,263	自治振興室
			一般	2	1		
事業の概要							
自治会長会において、各自治会における現状や相互に共通する懸案事項について、情報交換や交流会を継続して実施します。さらに、自治会が組織としての機能を発揮するように、継続的な活動支援として、運営補助と事業補助を行い、住民自治活動を促進します。また、新たに未組織地域が発生しないよう関係機関に働きかけるとともに、自治会未組織地域の解消に向けた支援を行います。							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	自治会加入率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	53.3(令和2年度)	目標	50.0以上	50.0以上	50.0以上	50.0以上	50.0以上
	実績	52.6	50.1				
<ul style="list-style-type: none"> 各自治会で関心の高い災害対策について、6月は岐阜県羽島市へ管外研修を行うとともに、7月には「要配慮者支援制度」の勉強会を行いました。また、3月には民生児童委員協議会と自治会長会合同で「要配慮者支援制度」の研修・意見交換会を行いました。 1月には、「市長と語る対話のわ」を開催しました。「これからの長岡京市」として、本市の現状とまちの新陳代謝について、自治会と活発な意見交換が行われました。 また「助け合いとつながりのまちづくり条例」の策定に伴い、自治会の負担軽減について、庁内および自治会長会での調査や調整を行いました。 「助け合いとつながりのまちづくり条例」ガイドブックの作成にあたって、自治会長のインタビューも掲載し、自治会の必要性について、市民等に周知しました。 神足地域に建設された大型マンションおよび既存マンションの会議や出前講座に出席し、自治会や自主防災会の設立について働きかけを行いました。 							
冬季研修会の様子							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		自治会加入率		単身世帯の増加等で推計人口の世帯数は増加していますが、自治会加入率は減少しています。自治会員の高齢化や自治会活動への負担感による脱会者の増加により活動が縮小しつつあります。
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 上記取組に加え、各自治会が転入者に声掛けをされることにより、新規加入はありますが、死亡や施設入所及び自治会活動への負担感等により脱会者が生じていることから、全体として加入率は減少となりました。 自治会の負担軽減にかかる調整により、充て職の委員を1件削減するとともに、回覧物の見直しを行いました。 	
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> 特に高齢の方が、自治会活動や役に対する負担感により脱退されるケースが多くなっています。 自治会員の高齢化と役員の後継者不足により組織が弱体化し、維持が難しくなっている自治会も出てきています。 コロナ禍での活動低下により、自治会加入率が加速的に低下しており、加入のメリットを感じられる活動の再開が喫緊の課題です。 	

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> 各自治会の現状や課題を把握、解決するため意見交換会をこれまで以上に行っていきます。 令和4年度に実施したアンケートを基に、更に負担を減らせるよう庁内及び自治会長会と協議していきます。 自治会活動のDX化やアフターコロナの自治会活動など、先進事例の情報収集と共有に努め、多様な自治会活動への意識を醸成していきます。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 52
施策	311	自治活動の促進	
5年後の目標		地域住民の間に日常的な対話が増えてつながりが生まれ、地域の課題に市民が主体的に向きあい行動している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	地域コミュニティ活性化事業		会計	款	項	目	10,374,902	自治振興室
			一般	2	1	18		
事業の概要								
防災や高齢者の見守り等、地域に期待される互助・共助の意識向上を目指し、地域のコミュニティの活性化を進めます。地域コミュニティ協議会の役割を明確化し、全小学校区でのコミュニティ協議会など校区を単位とした住民連携組織の設立に向けた支援を行うとともに、地域における自主運営体制の確立に向けた支援を行います。また、地域における各種団体の存在意義や役割を明確化し、重複する事業の整理統合等を進め、地域活動団体の負担軽減や連携強化を推進します。								


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	小学校区での住民連携組織の設立数				単位	校区
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	8(令和2年度)	目標	8	9	10	10	10
		実績	8	9			
<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の主体性を尊重しながら地域の課題や問題を解決する仕組みを模索するために、長法寺小・長三小・長四小・長五小・長七小・長八小・長九小・長十小校区において校区単位の地域コミュニティ活性化事業を実施しました。 地域住民の自主性をより高めるため、長三小・長四小・長五小・長七小・長九小・長十小校区では地域コーディネーターを置かない住民主体の事務局運営を実施しました。長法寺小・長八小校区においては地域コーディネーターを配置し、事業や活動の調整役・行政とのパイプ役を担いました。 長六小校区は、設立に向けて地域住民と話し合いを重ねた結果、準備委員会を立ち上げ、令和5年度にはコミュニティ協議会設立予定です。 						長六小校区準備委員会設立総会 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の設置済み校区は9校区です。(準備委員会を含む) 長三小・長四小・長五小・長七小・長九小・長十小校区では地域コーディネーターを置かない住民主体の事務局運営をしています。住民自らが主体的に地域活動に関わり、地域力の向上につながりました。 長六小校区では自治会長や関係団体らとの話し合いを経て、地域コミュニティ協議会設立準備委員会が立ち上がりました。 長法寺・長八小校区については住民主体の運営に向けて支援を行った結果、令和5年度からコーディネーターを置かずに住民主体の事務局運営を行うことが決定しました。 	
	課題等			<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティ協議会未設置校区が1校区(神足小)あるため、関係団体や住民との話し合いを進めていく必要があります。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 未設置校区の神足小校区においては、新たな組織に参加することによる負担感を解消し、自治会における住民活動や他の地域を核とした連携組織との違いを明確化した上で、協議会設立に向けた働きかけをする必要があります。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 53
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市民参画協働推進事業		会計	款	項	目	1,352,925	自治振興室
			一般	2	1	18		
事業の概要								
市民活動団体への財政的支援や活動拠点の提供、幅広い市民の参画の促進、情報発信や啓発などを実施します。 また、計画的に施策を進めるため、「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」の進行管理を行います。								


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」の施策達成率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	70.8(令和元年度)	目標	72.0	74.0	76.0	78.0	80.0
		実績	75.4	84.2			
<ul style="list-style-type: none"> 市職員の協働意識の向上のため、入所1年目の職員を対象に、満足度の高い内容となるよう工夫を行いながら研修を開催しました。 市民参画協働懇話会を2回実施、市民協働のまちづくり推進プランの進行管理や次期推進プランについて意見聴取しました。 市民活動団体に市民活動応援補助金を交付し、財政的支援を行いました。また、活動発表会を市民活動サポートセンターと3月に共催し、市ホームページで活動内容の紹介も行いました。 					市民参画協働懇話会 		

施策の「5年後の目標」に対する評価 令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 入所1年目対象の職員研修では、ワークショップ形式で自由に発言できる場作りを行う等の工夫をし、研修アンケートの満足度は100%でした。 市民活動応援補助金については、「市民提案型協働事業コース」は4件、「スタートアップコース」は4件採択し、採択された市民活動団体に対して、補助金(958千円)を交付し、財政的支援を行いました。また、昨年度に引き続き、スタートアップコースは秋募集も行いました。 市民活動オフィスフロアの利用促進に向け、広報、HPの掲載及び利用者への更新案内を行い、5団体6ブースの利用がありました。 パブリックコメント制度を活用し、5件の条例案や計画案等について市民からの意見を募りました。パブリックコメントをしやすくなるよう、全ての案件で概略資料が作成されました。
課題等	市民活動団体の財政的自立に寄与する市民活動応援補助金制度について、活動の実態に沿った制度設計であるか、制度の周知及びPR方法について引き続き検討していく必要があります。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動応援補助金制度について実際の採択団体やそのほかの市民活動団体、懇話会委員の意見を取り入れ、より効果的な制度となるよう検討します。 引き続き、市民協働のまちづくり推進プランに基づいた施策の研究・実施を図ります。

分野	31	地域活動・市民活動	通番 54
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標	生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。		

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	市民活動サポートセンター事業		会計	款	項	目	8,678,155	自治振興室
			一般	2	1	14		
事業の概要								
市内のNPO法人などの市民活動団体の広がりや、ステップアップ、団体と地縁組織を含めた多様な主体との連携を促進するため、市民活動サポートセンターを中間的な支援機能を担う拠点として、指定管理者制度を活用し、民間のノウハウを持つ団体が、市民への紹介、団体同士及び団体と市民のネットワークづくりの支援、新規に活動をしたいと考える市民に対する相談及びアドバイスを行います。								


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	市民活動・ネットワークづくりに関する延べ相談件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	63(令和元年度)	目標	70	80	90	100	110
		実績	83	83			
<p>・一般社団法人市民活動ネット・チーム長岡京を市民活動サポートセンターの指定管理者として、①団体同士や団体と市民のネットワークづくりの支援 ②センターや協働を市民に知ってもらうための各種事業 ③団体や活動をしたいと考える市民に対する相談及びアドバイス ④登録団体及びスタッフのスキルアップのための研修会などを実施しました。</p> <p>・ホームページ、フェイスブック、広報誌「サポセン通信」等により、市民活動サポートセンターを周知しました。センターの公式LINEアカウントを活用し、より簡単に情報を共有する仕組みを整えました。</p>					<p>チラシコンテスト作品冊子</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	市民活動サポートセンター登録団体数	コロナ禍が収束してきたこともあり、コミュニティ活性化事業の再開等がセンターの利用・登録増に繋がっていると考えられる。	183	
達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・登録団体数(施設利用ができる団体数)は令和3年度の165件から169件に増加しました。</p> <p>・コロナ禍の中、ネットワークに関する総相談件数は延べ83件と目標値を超える具体的な相談や、事業に参加したい、ボランティアをしたいという個人からの相談もあります。</p> <p>・加入団体のPRのため、サポセンフェスティバルと同時開催で登録団体チラシコンテストも開催し、86団体の応募がありました。各団体の活動状況を広く伝えることを目的に、作品については冊子にまとめ、市内各所で配布を行いました。</p>	
課題等	<p>・市民活動に興味のある市民の方や活動している団体に対して、市民活動サポートセンターの中間支援組織としての役割をさらに周知する必要があります。</p> <p>・引き続き、中間支援組織として、行政、企業、NPO、支援者等をつなげる仲介的な機能も担い、また市民活動団体の運営に寄り添いながら、組織の基盤整備や支援を担うための専門性が求められます。</p>			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
方向性	
1:計画通りに進めることが適当	<p>・引き続き市民活動サポートセンターの利用方法や相談方法をホームページや市広報紙、登録団体へのメールマガジンなどで周知活動を行います。</p> <p>・活動に対して的確に助言を行える中間支援組織となるよう、スタッフ全体のスキルアップに努めます。</p>

分野	31	地域活動・市民活動	通番 55
施策	312	市民活動の活発化と協働の促進	
5年後の目標		生活の充実につながる市民活動が活発化し、団体の活動や活動団体相互の協働がまちづくりの力になっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	多世代交流ふれあいセンター事業		会計	款	項	43,217,743	多世代交流ふれあいセンター
			一般	2	1		
事業の概要							
地域活動・市民活動を支える拠点の一つとして、また世代を超えた市民の幅広い交流を促進し、市民活動、男女共同参画、地域福祉、健康づくり及び生涯学習に寄与する場の提供、充実を図ります。							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	多世代交流ふれあいセンター利用者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	33,355 (令和元年度)	目標	34,500	35,500	36,500	37,500	38,500
		実績	26,035	33,312			
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防対策のため、利用者へアルコール等消毒用品の提供を行い、感染症予防に努めました。 ・防犯対策として、駐車場に防犯カメラを1台増設しました。 ・利便性の向上を図るため、給排水設備改修を行いました。 							
交流室での活動の様子							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・給排水設備改修工事のため、貸室の利用制限があり(学習室1・2は令和4年6月~8月末まで、和室は令和4年6月~令和5年3月末まで)、また新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、貸室の利用人数制限(~令和4年5月末まで)があったものの、全体の利用人数は前年度比約28%増となっています。	185
	課題等	・参加者数の多い活動のある日は、駐車場が混雑することがあります。また、施設のバリアフリー化や、本庁舎の建替期間中暫定的に市の会議室の代替として利用している医師会移転後のフロアの活用方法を検討する必要があります。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内のバリアフリー化を検討します。 ・西山公園体育館の駐車場と調整し、利用者に負担をかけないよう調整します。 ・医師会が移転した後のフロアの活用方法を検討します。

分野	32	人権	通番 56
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標		一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課		
	人権啓発推進事業		会計	款	項	目	共生社会 推進課	
			一般	2	1	16		706,497
			一般	10	1	3		1,033,069
事業の概要								
全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指し、市内人権団体などと、さまざまな人権啓発事業を実施します。								


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	人権啓発事業への参加者数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	6,152 (令和元年度)	目標	5,700	5,950	6,200	6,200	6,200
		実績	4,916	5,496			
<p>・12月3日(土)に「人権・男女共同参画フォーラム」と「障がい者児の人権を考える市民のひろば」を合同で開催し、関係団体の発表、パネル展示、盲目のヴァイオリニスト増田太郎さんの講演会などを行いました。</p> <p>・全ての市民の人権が尊重され、個性と能力を発揮することができる社会を目指して、人権啓発作品(標語・ポスター・写真)を募集し、4,179人から4,649件の応募がありました。</p> <p>・市民団体である人権啓発推進協議会と連携し、様々な人権に関するテーマの講座を4回開催しました。</p> <p>・暴力根絶と児童虐待防止を目的とした「パープル&オレンジリボンプロジェクト」をはじめ、男女共同参画講座の開催など、ニーズに即した多角的な事業を行いました。</p>					<p>「人権・男女共同参画フォーラム」</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 一部新型コロナウイルス感染拡大の影響により講座の中止などありましたが、参加者数は5,496人となりました。 人権啓発推進協議会をはじめ、各種人権団体と講演会や研修会を通じて、広く市民に人権について学べる機会を提供しました。 参加者からのアンケートによると、各種講座やイベント等において8割以上の方が「理解が深まった」「良かった」と回答いただきました。 	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 未だ、同和問題や、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人等の様々な人権問題が存在しています。 近年は、ヘイトスピーチのほか、SNSなどのインターネット、LGBT等に関連した人権侵害など、新たな人権問題も発生しています。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 複雑、多様化する人権問題について、一人ひとりが自分の問題として認識してもらえるよう、テーマや開催方法などを工夫して、啓発に取り組みます。 市民団体や学校、関係機関と協力、連携しながら、人権啓発事業を実施します。

分野	32	人権	通番 57
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標	一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	北開田会館地域交流事業		会計	款	項	2,201,753	北開田会館
			一般	3	1		
事業の概要							
地域の拠点施設である北開田会館を活用した地域活動等や貸館業務を通じて地域住民と周辺地域住民との交流を深め、同和問題(部落差別)をはじめあらゆる人権課題の解決に向けた各種事業を推進します。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	北開田会館における人権啓発事業の利用人数					単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	4,532 (令和元年度)	目標	4,600	6,000	6,100	6,150	6,200	
		実績	1,187	1,283				
<p>・習字教室(36回)、料理教室(3回)、ウォーキング教室(7回)、ヨガ教室(18回)、陶芸教室(9回)、手作り教室(1回)、京文化教室(4回)、手話教室(37回)、囲碁・将棋教室(83回)、ゲートボール教室(1回)、クロリティー教室(1回)を実施しました。</p> <p>・高齢者の健康維持を目的としたデイサービス事業を20回【健康体操8回、寄せ植え2回、社会適応訓練(講習)1回、サロン9回】しました。</p> <p>・人権教育指導員による各種人権研修を開催しました。</p>					<p>社会適応訓練(講習)</p> 			

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<p>・昨年度中止になった文化教養教室等の一部が再開されたことにより、全体の利用者が昨年度と比べて増加しました。</p> <p>・人権教育指導員による各種人権研修については前年(22回)から4回増え26回でした。同和問題(部落差別)をはじめ様々な人権課題の解決に向けた事業を推進しました。</p>
課題等	<p>・全体的に65歳以上の高齢者の利用が多い傾向にあるため、各種事業において65歳未満の人の利用を促進するための事業の展開が課題となっています。</p> <p>・以前より定期的実施している事業においても、生活時間及び生活様式の多様化を踏まえて、再検討し改善していく必要があります。</p>			

次年度以降の対応	
A (行動)	<p>方向性</p> <p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <p>・文化教養教室開催事業及び地区内啓発事業において、会館利用者のニーズに基づいて時間・開催回数を設定し募集範囲の拡大等の対策を行うことで参加者を増やします。</p> <p>・人権課題の解決に向けた各種事業を引き続き推進していきます。</p>

分野	32	人権	通番 58
施策	321	人権・平和を尊ぶまちづくり	
5年後の目標		一人ひとりが確かな人権意識と平和を尊ぶ心を持ち、差別と人権侵害に対して、考え行動する力を有している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	平和施策推進事業		会計	款	項	目	582,869	共生社会 推進課
			一般	2	1	16		
事業の概要								
戦後80年近くが経過し、戦争体験が風化しつつある中で、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、いのちの尊さを次世代に引き継いでいくため、行政として中立的な立場から「平和を考える市民フォーラム」等の開催や、インターネットを利用して戦争・平和に関する資料を掲載する「バーチャル平和祈念館」を活用し啓発活動の充実に取り組みます。とくに学校教育現場での活用を推進し、若年層への平和意識の積極的な醸成に取り組みます。								


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	長岡京市バーチャル平和祈念館のアクセス数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	13,894 (令和元年度)	目標	15,000	15,800	16,600	17,500	18,500
		実績	18,950	33,987			
<ul style="list-style-type: none"> 平和祈念碑、戦没者追悼之碑への献花式を企画しましたが、大雨警報発令により中止となりました。 50周年関連事業としてコロナ前のフォーラム形式で式典や講演会、展示などを実施しました。 絵本作家の長谷川義史さんによる絵のパフォーマンスや絵本朗読など講演会のほか、市内空襲に関する実物展示や、広島・長崎原爆写真パネルの展示などを実施し、市民の皆様へ平和について考える機会を提供しました。 バーチャル平和祈念館のトップページのリニューアルや子供向けのクイズの追加をするなど、若年層の目を引く工夫をこらしました。 						平和フォーラム 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 若年層向けの取組として、バーチャル平和祈念館へ子供向けクイズを追加したことで、気軽に参加できるページにすることができ、フォーラムや平和授業で子供たちに啓発を行った結果、目標値を大きく上回る実績数値を達成することができました。 式典には165人、展示には150人、計315人ご参加いただき、広く市民に平和について考える機会を提供できました。 長八小4年生84人に平和の授業を実施し神足空襲やバーチャル平和祈念館などについてお話し、通常の授業では学ぶことができないことを知ってもらった機会となりました。 	達成状況
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 平和啓発に関するイベントについて、若い世代にも関心をもってもらえるよう企画を工夫して実施することが必要です。 バーチャル平和祈念館を、より多くの方(特に若年層)に利用いただき、何度も見ていただける工夫が必要です。 		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前の企画に戻し、献花式とフォーラムを同時開催の予定です。これまでの取り組みを継承しながら、若年層に平和を考えていただける講演会を企画します。 フォーラムのパネル展ではクイズラリーを企画し、子どもたちが興味をもって平和・戦争について学べる機会を提供します。 小学生を対象に平和学習を実施し、バーチャル平和祈念館に学習成果を掲載します。

分野	32	人権	通番 59
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標	すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	男女共同参画社会の実現事業		会計	款	項	5,186,274	男女共同参画センター
			一般	2	1		
事業の概要							
男女共同参画社会の形成には、あらゆる世代の市民が、固定的性別役割分担意識や男女の不平等感を払拭し、男女共同参画の視点と意識を持つことが必要です。そのため、多様な選択を可能とする学習機会の確保や、各種啓発事業の充実を図るとともに、女性活躍を推進する環境作りを進めます。また、誰もが様々な問題や悩みを安心して相談できる体制を整備するとともに、関係機関との連携のもと、ドメスティック・バイオレンスや児童虐待への対応を強化し、DV被害者等へのワンストップ支援体制の充実を図ります。							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	審議会等の市民公募委員への女性委員参画比率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	45.3(令和元年度)	目標	46.0	46.0	48.0	48.0	50.0
		実績	52.8	54.0			
<p>・ 審議会等の市民公募委員については、長岡京市審議会等への女性委員の登用推進要綱に基づき、事前協議書の確認を行い女性の参画拡大につなげました。</p> <p>・ 男女共同参画に関して15講座実施し、人権・男女共同参画フォーラムでは、市制50周年記念事業とし「自分らしく生きられる未来へ」をテーマに、男女共同参画に関する年表の展示やメッセージの募集、ジェンダーギャップ指数等の統計による現状分析の展示を行い、啓発しました。</p> <p>・ 「面接相談」「電話相談」「DV電話相談」「女性のカウンセリングルーム」「女性の法律相談」「男性電話相談」を運営し、DV等様々な相談に応じるとともに、必要性に応じて長岡京市DV対策ネットワークにおける関係機関と連携し支援を行いました。</p>							
						人権・男女共同参画フォーラムの展示	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	指標	「地域で」、「社会全般として」男女が平等になっていると考える市民の割合<男女ごと>	令和元年度実施の意識調査では、「地域で男女平等」と考える割合は、男性が46.4%・女性が35.3%でした。また、「社会全般で男女平等」と考える割合は、男性が24.1%・女性が11.3%でした。「社会全般で男女平等」と考える男性の割合は増加していますが、女性については、「地域で男女平等」「社会全般で男女平等」いずれの項目も減少となりました。ジェンダー平等意識の高まりにより、平等感も減少しているのではないかと推測されます。	184
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・ 審議会等の市民公募委員への登用については54%と目標値を上回りました。</p> <p>・ 講座については、参加人数は657人となり、男女共同参画の意識づくりにつなげることができました。</p> <p>・ 「パープル&オレンジリボンプロジェクト」への参加者は511名でした。高等学校2校へ「若年層のデートDV」について出前授業を行い、暴力被害の未然防止と誰もが安心して暮らせる社会づくりに向け意識啓発を行いました。</p> <p>・ 令和4年度の相談件数は、面接と電話による「一般相談・DV相談」が767件、内DV114件(14.9%)、「女性のカウンセリングルーム」が105件、内DV10件(9.5%)、「女性の法律相談」が29件、内DV3件(10.3%)、「男性電話相談」が13件、内DV0件(0%)の合計914件、内DV127件(13.9%)となりました。</p>
課題等	・ 審議会等の市民公募委員への登用については、目標値を達成しています。			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当
	対応策等
	・ 引き続き、幅広い分野への女性の参画拡大に向け、担当課へ働きかけを行います。また、全体の女性参画比率を上げるために、選出母体である地域団体等に対し、自治会や地域コミュニティ協議会等を通じ、地域へ男女共同参画啓発を行います。

分野	32	人権	通番 60
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標	すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。		

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	性の多様性理解促進事業		会計	款	項	目	200,610	共生社会 推進課
			一般	2	1	16		
事業の概要								
LGBTなど、新たな人権課題である「性の多様性」への理解を進めるため、市民・学校・事業所等への啓発の充実を図るとともに、市としての発信に取り組みます。								


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	性の多様性理解促進に関する取組み				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	パートナーシップ制度の実施	LGBTリーディングカンパニー制度の検討	LGBTリーディングカンパニー制度の実施	制度の運用	制度の運用
	実績	パートナーシップ制度の実施	LGBTリーディングカンパニー制度の検討				
<p>・性的指向及び性自認に関わらず一人ひとりの人権が尊重され、多様な生き方や価値観を認め合い、誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指し、令和3年6月1日からパートナーシップ宣誓制度を開始し、現在3組6名の方に受領証を交付しています。</p> <p>・昨年6月に、京都市・亀岡市に加え向日市・福知山市と都市間連携協定を結び、7月1日から5市の間で転出入の際のパートナーシップ手続きの簡略化できるエリアを広げました。</p> <p>・性的少数者やその周囲の人たちが気軽に集まり交流できるコミュニティスペースの開催や市民を対象とした講座を開催し、性の多様性の理解促進を図りました。</p>					<p>性の多様性を考える講座(3/14)</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価 令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			LGBT(性的少数者)という言葉の認知度	近年、性の多様性への理解は広がりがつつあり、LGBT(性的少数者)という言葉の認知度も8割以上と高くなっています。
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	<p>・「パートナーシップ宣誓制度」の都市間連携について、さらに2市と協定を結び手続きの簡略化できるエリアを広げました。</p> <p>・事業者に対し性の多様性の取組みに関するアンケート調査を実施し、今後のLGBTリーディングカンパニー制度への検討材料とすることができました。</p> <p>・性の多様性に関する講座に25名の方に参加いただき、8割以上の方が「講座の内容がよかった」「今後活かせる」と回答いただきました。</p>	
	課題等		<p>・パートナーシップ宣誓制度について、認知度が低いため、引き続き啓発をしていくことが必要です。</p> <p>・パートナーシップ宣誓制度を契機とした取組(行政サービス等)の推進を図ることが必要です。</p> <p>・当事者団体とのつながりが無く、当事者のニーズを把握する機会が少ないことが課題です。</p>	

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当
	<p>対応策等</p> <p>・市内の医療機関に対して、性の多様性の取組みに関するアンケート調査を行い、LGBTリーディングカンパニー制度導入の検討を行います。</p> <p>・京都市及び亀岡市と共催で、コミュニティスペース「まあぶるスペース」を定期的で開催し、当事者やその支援者の交流の場や機会の提供、ニーズの把握を行います。</p>

分野	32	人権	通番 61
施策	322	多様性を認め合う共生社会の実現	
5年後の目標	すべての人が、自分の望む人生を自分で選び取る機会を保障され、個性と能力を十分に発揮して生活している。		

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	障がい理解・合理的配慮提供 促進事業		会計	款	項	1,410,300	障がい福祉課
			一般	3	1		
事業の概要							
障がい者差別の解消や理解促進を図るため、障がい特性の理解と合理的配慮の事例を学ぶ機会の創出や、主体的に行動できるサポーターづくりに取り組みます。							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	障がい特性理解のための研修を受け、「あいサポーター」となった市民・事業者の数				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	719(令和元年度)	目標	880	1,030	1,230	1,430	1,630
		実績	1,236	1,346			
<p>・障がいのある方に対しての手助けや配慮等を実践するあいサポーターの養成を通じて、誰もが暮らしやすい社会を目指すあいサポート運動を推進するため、「あいサポーター養成研修」を行いました。オンライン研修について、市ホームページやチラシで周知しました。</p> <p>・あいサポーター研修を受講し、あいサポート運動の普及等に積極的に取り組む企業、団体等に対して「あいサポート企業等」の認定を行いました。</p> <p>・ホームページや広報紙に合理的配慮の取組みやあいサポート運動の概要、ほっとはあと製品(障がい福祉事業所の製品)の紹介等を掲載し、啓発を行いました。</p>					<p>「あいサポート企業等」認定証 授与</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価 令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	評価指標	障がい者(児)に対する「生活に必要な支援のニーズ」について問うアンケートで、 ①「障がい者にとって住みやすい家が準備されていること」が選択された割合 ②「必要な福祉サービスが適切に利用できること」が選択された割合	約4分の1の方が生活する住まいに何らかの支援を求めており、半数以上の方が必要な福祉サービスの適切な利用を望んでいます。障がいのある方が必要な福祉サービスや支援を適切に利用でき、地域生活を継続できる環境整備が今後取り組むべき課題です。	180
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 市職員、団体、市民を対象に計6回のあいサポーター養成研修を実施し、110人のあいサポーターを養成しました。市職員に対する研修は感染症拡大の状況を鑑み、DVD視聴及び書面での研修としました。 1団体を「あいサポート企業等」に認定しました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 障がいを理由とする不当な差別的取扱いの解消や合理的配慮の提供を促進するため、市や障がい者相談員が受けた相談事例について、あいサポーター研修に反映していく必要があります。 誰もが暮らしやすい長岡京市を実現するために、障がいのある方に対し配慮できるあいサポーターのさらなる養成が必要です。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	<p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、市民・事業者・団体等へ積極的に周知啓発を行い、障がい理解の向上に努めます。 あいサポーター養成の拡大に向けて、あいサポーター研修の情報発信に取り組み、研修参加者を増やすとともに、参加者のニーズに合わせた研修内容を企画します。 民間事業者の障がい理解啓発を促進し、あいサポート企業等の認定を増やします。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 62
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	各種団体・サークル等活動 支援事業		会計	款	項	目	158,400	中央公民館
			一般	10	4	2		
事業の概要								
公民館で活動しているサークルの活動紹介等を通じて、公民館に来館し、活動する市民を増やします。館内の発表会・パネル展示・広報紙に加え、中・高・大学生、壮年等の世代別の広報も展開し、新たな市民利用を呼び込みます。								


令和4年度の取組							
D (取組)	指標①	公民館(社会教育ホール)登録団体件数				単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	166(令和2年8月末 現在)	目標	170	175	180	185	190
		実績	182	190			
	指標②	公民館(社会教育ホール)登録団体による利用件数(児童室・焼成炉を除く)				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	2,869 (令和元年度)	目標	2,900	2,930	2,960	2,990	3,020
		実績	1,921	2,678			
	<p>・公民館サークル連絡協議会(略称:公サ連)の会員が中心となり、市民ギャラリーの作品展示や館内での募集看板の掲示及びオープンハウスを利用したサークル加入のための啓発活動を実施しました。また、コロナ禍で中止となっていた公サ連まつりを3年振りに再開し、美術工芸展や芸能発表会活動など活動の成果を発表しました。</p>					<p>オープンハウス(ウクレレサークルココパ)</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・新型コロナウイルス感染症が収まってきたことで、6月から各部屋の人数制限も緩和され、団体による利用件数も増加してきました。	
	課題等	・団体登録更新時期(3年毎)まで、退会の手続きをされていない団体も多数見受けられるので、更新時に多数の団体が退会され減少することが見込まれます。		

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	<p>1:計画通りに進めることが適当</p> <p>対応策等 ・会員と意見交換等を通して、見学や体験などの機会となるオープンハウスを引き続き実施するほか、普段の活動時でも気軽に見学できるよう、活動日に部屋の入口に「見学歓迎」などの掲示を行い、会員確保につなげていきます。</p>

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 63
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	公民館市民講座開設事業		会計	款	項	1,296,951	中央公民館
			一般	10	4		
事業の概要							
市民生活が生涯学習を通じて潤いあるものとなるように、様々な学習ニーズに対応した講座を実施します。また、実際生活に関する学習課題を市民自らが講師となり共に解決していく「市民企画講座」を実施します。							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	公民館主催講座の参加者数(児童室一般開放を除く)				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	6,013(令和元年度)	目標	6,130	6,190	6,250	6,310	6,370
		実績	3,877	5,099			
<p>・各世代のニーズに応じた講座として、青少年教育(少年少女発明クラブ12回)、男女共同参画(男女共同参画講座1回)、高齢者教育(熟年生き生き講座12回)、家庭教育(ぴよぴよクラブ10回、子育てふれあいルーム72回、家庭教育学級1回)、福祉教育(聴覚言語障がい者学級1回)、また、公民館での子育て事業や各種講座への託児に従事していただける子育てボランティアを養成する講座9回、子育てボランティア同士の情報共有の場としてサポーターふれあいネット12回を実施しました。令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で5月までは定員数を制限しており、6月以降も含めて感染症拡大防止対策を徹底しながら、講座の開催に努めました。</p> <p>・29年度に試行、30年度から本格的に実施した市民企画講座は、総合計画から抽出したテーマに沿って、市民自らが講師となり51企画、148講座を実施しました。3年度に引き続き、個別のチラシはもとより、3ヶ月単位で取りまとめたチラシも作成し、実施時期や内容が一目でわかるよう工夫しました。</p>					市民企画講座		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響は3年度よりは少なく、実績値も増加したものの、熟年生き生き講座の参加者が指標策定時の令和元年度と比較すると52.5%と半分程度になったことの影響が大きく、参加者数は目標を下回る結果となりました。</p> <p>・講座終了後にアンケート調査を実施し、集約結果を講師と共有することで、参加者ニーズの把握と次回への取り組み課題への反映につなげており、参加者の満足度は80%~100%となっています。</p>	
課題等	<p>・平成30年度の本格実施から5年が経過し、徐々に市民企画講座が認知されてきた一方、講座数が増えたことに伴い、サークル活動のために使える部屋が少なくなってしまうといった課題もあります。サークル活動と公民館事業が共存するための方法を今後検討していく必要もあります。</p>			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
方向性 1:計画通りに進めることが適当	<p>・引き続き、アンケート結果をもとに市民ニーズの把握に努め、講座数の上限など調整する中で、実施していきます。</p>

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 64
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	中央生涯学習センター事業		会計	款	項	73,879,650	生涯学習課
			一般	10	1		
事業の概要							
人生100年時代を迎え、生涯学習社会への重要性が高まっています。市民の主体的な学びの場として、また、学習機会や情報を提供する場として、中央生涯学習センターを管理運営します。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	中央生涯学習センター貸室利用率				単位	%	
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	48.7(令和元年度)	目標		30.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績		30.1	40.9			
<ul style="list-style-type: none"> 中央生涯学習センターの管理運営は、指定管理者である大阪ガスビジネスクリエイト株式会社に委任しています。 今年度も、基本的な感染対策を呼び掛けたくえて、貸室事業を行いました。 指定管理者の自主事業として、バンビオ展示ウィーク、バンビオファミリー人形劇、夏休み親子企画、落語会、各種講座などを行いました。 利用促進のため配膳試食室の改修を行いました。 生涯学習機関紙「be→!」や「バンビオここから通信」を全戸配布し、イベントの告知や施設利用サークルの紹介などの情報発信を行いました。 						 <p>自主事業(講座)の様子</p>		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		主な社会教育施設の利用者数		新型コロナウイルス感染症の影響による休館は1日も無く、利用者数は概ね回復傾向となりました。	185
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 空調入替工事による貸室停止期間はあったものの、稼働率は概ね回復傾向にあるといえます。空調更新や施設修繕により、快適な利用環境を整えることができました。 指定管理者の自主事業として講座やイベントを積極的に行い、事業への参加を通じ、多くの方に新たな学びの機会を得ていただくことができました。 盆踊りフェスタ、妖怪の世界展、バンビオ謎解き探検ラリーなど集客効果のあるイベントを実施し、多くの方に訪れてもらうことができました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で生涯学習活動を休止していた人が、学びを再開していただけるよう、施設利用のきっかけとなる取り組みを行う必要があります。 平成17年の開館から18年が経ち、利用者に快適に施設を利用いただくためにも、施設や備品について、必要な範囲で修繕や更新を行っていく必要があります。 				

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、魅力的な講座やイベントを実施し、生涯学習、施設利用のきっかけづくりとなる取り組みを行います。 モバイルWi-Fiルーターの貸し出しなど、利用者のニーズに合った取り組みを行います。 計画的に、施設や備品の修繕、更新を行っていきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 65
施策	331	生涯学習環境の充実	
5年後の目標		誰もが人生を通じて学びへの意欲を向上させ、また、仲間とともに学びを楽しんで、自己実現につなげている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	図書館サービスの推進・充実事業		会計	款	項	11,244,738	図書館
			一般	10	4		
事業の概要							
読書啓発活動を推進するとともに、今まで図書館を利用していない人にも魅力を感じてもらえるアプローチの手法を検討・実施します。							


令和4年度の実績							
D (取組)	指標	1冊あたりの年間稼働率(回転数)				単位	回
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	1.58(令和元年度)	目標	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70
		実績	1.72	1.70			
<p>・2階児童室の調べものの本について、子どもが探しやすいよう背表紙ラベルに記載の本の分類番号順に並び替えを行いました。また、遠くからでも目的の書架にたどり着けるよう、書架の上に立体的サインを設置しました。</p> <p>・市制50周年記念事業では、「読み継いでいきたい50冊」と題して市民よりおすすめ本を募集した中から選りすぐった50冊のブックリストを作成し、「ブックバトン」および50年を振り返る展示「思ひ出バトン」の展示を行いました。また、大人向けに「長岡時代の細川藤孝～古典を楽しむ～」をテーマに連歌体験のワークショップを取り入れた講演会を実施しました。</p> <p>・雑誌スポンサー企業として新たに3事業者が参加し、新たな情報発信の試みとして、選書からレイアウトまで司書と企業と共同で作上げる企画展示を今年度初めて実施しました。</p> <p>・男女共同参画、民生児童委員など市の他部署との連携による展示やウクライナ特集等の時事問題を取り入れた展示を行う等、来館者の裾野を広げるため多様な切り口の図書展示を行いました。</p>						 <p>雑誌スポンサー企画展示</p>	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・図書館利用が少ない中学生から働く世代向けの講座を昨年度に引き続き実施した結果、司書による文学講座では11名の参加がありました。書評を通じたコミュニケーションゲーム「ビブリオバトル」「ビブリオトーク」を開催し、延べ16名の参加がありました。また、図書館を主な活動場所とする団体「金のうろこ」による公開講座や、科学の本を実体験と共に届ける「よもう！たのしもう！かがくの本！」による講座では、年齢を問わず楽しめる内容とすることで多世代間での本を通じたコミュニケーションが生まれました。これらの行事により新たな参加者層を発掘し、本との出会いの機会を充実させることができました。	
	課題等		・令和2年度より本が好きな中高生による「知恵の実」の会が発足し、本に関する活動が行われてきましたが、創設時のメンバーの卒業などの事情により、中高生向けの読書啓発活動の見直しが必要になっています。		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで関わってきた読書啓発活動団体と引き続き良好な関係を築きながら、大学(市内外含む)や高等学校、小中学校などへも積極的に働きかけ、新たな協力・連携体制づくりを行い、小学校高学年から大学生までの利用が少ない層を巻き込んだ読書啓発活動を企画していきます。 ・引き続き、情報の新鮮さ・信用性を精査して図書を収集する一方で、古い本を適切に廃棄することで新鮮な情報が得られる書架・蔵書づくりを進めます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 66
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	長岡京芸術劇場推進事業		会計	款	項	77,466,635	文化・スポーツ 振興課
			一般	10	4		
事業の概要							
<p>「長岡京芸術劇場」公演をはじめとした文化・芸術事業を推進します。また、子どもたちが文化・芸術に興味関心を持ち、活躍するまちづくりに取り組みます。</p> <p>また、長岡京記念文化会館を拠点とした質の高い舞台芸術の提供と充実を図るとともに、記念文化会館の安定的な運営を目指し京都府に対して会館の活用や維持・改修を求めています。</p>							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	長岡京芸術劇場の事業数					単位	事業
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	21(令和元年度)	目標	15	24	25	26	27	
		実績	12	18				
<p>・長岡京芸術劇場事業として、長岡京芸術劇場実行委員会主催事業(5事業)、文化奨励事業補助金助成事業(6事業)、芸術劇場ロゴマーク使用申請イベント(7事業)を企画し、18事業の実施となりました。市主催事業(1事業)は新型コロナウイルス感染症のため、中止を余儀なくされました。</p> <p>・長岡京芸術劇場実行委員会主催事業出演団体2団体による、市内小学校や中学校への出張コンサートや演奏指導などの交流に支援を行いました。</p> <p>・長岡京記念文化事業団に対し支援を行い、記念文化会館で音楽、映画等の17事業を実施しました。また、記念文化会館の老朽化(設備の故障、建物の雨漏り等)に伴い、京都府にホールの修繕計画の策定及び財政的支援を要望しました。令和4年度に舞台音響設備の部分改修、屋上防水の改修工事の内示を受け、令和5年度に実施予定です。</p>						<p>オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラによる演奏指導</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価						
令和4年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—	—		—	—
	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<p>・イベント開催の制限が緩和されたこともあり、参加団体と調整及び協力を十分に行い、安全に18事業を実施することができました。ただし、来場者が制限できないイベント等について中止を余儀なくされ、目標事業数の達成には至りませんでした。</p> <p>・ホールの使用制限が緩和され、芸術劇場付帯事業であるバイオリン体験を除いて、17事業実施することができました。また、開催制限が解除されたこと等を受け、記念文化会館使用率は61.2%、66,582人と前年度(40.9%、35,883人)と比較すると大幅に回復しました。</p>		
課題等	<p>・コロナ禍が続いた影響で、地域の文化芸術活動が停滞しています。</p> <p>・事業の中止、縮小が続いたことにより発表機会が減少した結果、文化活動へのモチベーションが低下しています。</p>					

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<p>・アフターコロナにおいて、地域の文化芸術活動の再開、復活のためにも、文化芸術団体と調整・協議を行い、連携協力しながら、事業を活発に実施できるよう検討・工夫及び支援を行います。</p>

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 67
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	文化活動推進・支援事業		会計	款	項	2,684,000	文化・スポーツ 振興課
			一般	10	4		
事業の概要							
誰もが文化・芸術活動にふれ、参加してもらう機会を確保するため、文化団体の文化・芸術活動を推進し、活動支援を行います。							


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	文化活動団体事業における参加者数(出品者、出演者、鑑賞者)				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	7,092(令和元年度)	目標	6,000	10,800	10,900	11,000	11,100
		実績	3,876	7,854			
<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市文化協会が主催する事業に補助金を交付し、市民の文化芸術の発表の場であり、鑑賞の場である「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」の実施を支援しました。また染色工芸をテーマとした「文化講座」や「各種市民文化教室」の開催を支援し、初心者を対象にした文化芸術活動へのきっかけづくりを行いました。 ・WITHコロナに対応した「長岡京市文化奨励事業補助金」制度を運用し、文化芸術に触れる機会を提供する実施団体の自主的な文化・芸術活動に対し支援を行いました。 					第31回名月の宴の様子 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
	評価指標	文化まつり等文化事業における参加者数(出品者・出演者・鑑賞者)	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、事業が開催されたことにより数値は回復しました。	186
	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会3大事業(「名月の宴」「市民文化まつり」「長岡京展」)は、感染症対策を徹底したうえで、完全実施することができました。 ・人流制限や施設(会場)の利用制限等コロナ禍の影響で、来場者数は目標値を達成できませんでした。 ・「名月の宴」では、新企画として事前に小学生が作成したランタンを展示したことにより、若い世代(子どもや子育て世代)に来場いただくことができました。 ・長岡京市文化奨励事業補助金の交付件数は、事業が復活したこともあり、前年度より3件増の6件となりました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続いた影響で、地域の文化芸術活動が停滞しています。 ・事業の中止、縮小が続いたことにより発表機会が減少した結果、文化活動へのモチベーションが低下しています。 ・加盟団体が休止・解散しており、特に高齢者の文化活動再開が困難になっています。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化芸術活動の再開、復活を目指して、文化芸術関連団体と連携協力を行うとともに、実施団体の支援や事業PR等に取り組んでいきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 68
施策	332	文化・芸術の振興	
5年後の目標		ふるさとの文化・歴史や良質な芸術に親しむ機会が増えて、市民の多彩な活動がまちの魅力をつくっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	総合的な文化財保存活用の推進		会計	款	項	目	4,247,506	文化財 保存活用課
			一般	10	4	5		
事業の概要								
文化財保存活用地域計画の策定と新庁舎での歴史資料の展示公開を進めます。計画の策定と合わせて、恵解山古墳をはじめとする「乙訓古墳群」の保存・整備、未調査の歴史資料の収集・調査・保存に取り組みます。								


令和4年度の取組							
D (取組)	指標	文化財保存活用地域計画の策定、新庁舎での歴史資料の展示公開				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	文化財保存活用地域計画の素案作成	文化財保存活用地域計画の作成	新庁舎歴史資料展示内容検討	新庁舎歴史資料展示設計	新庁舎歴史資料展示施工
	実績	長岡京市文化財保存活用地域計画の素案作成	長岡京市文化財保存活用地域計画の作成				
<ul style="list-style-type: none"> 長岡京市文化財保存活用推進会議、文化財保護審議会の意見聴取及びパブリックコメントを経て、長岡京市文化財保存活用地域計画を作成しました。 地域計画では、新庁舎歴史資料展示室の整備や乙訓古墳群の保存整備などを重点事業として整理しました。 地域計画の文化庁の認定を記念したシンポジウムを開催し、基調講演会やパネルディスカッションにより地域計画の重要性について浸透を図りました。 				 <p>シンポジウム開催風景</p>			

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・文化財の保存・活用に関する総合的な計画である長岡京市文化財保存活用地域計画を作成し、令和4年12月に文化庁長官の認定を受けました。
	課題等	・文化財保存活用地域計画に掲げる重点事業をはじめとした具体的な取組みを推進する体制整備や財源確保が必要です。		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・文化財の総合的な計画である長岡京市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の調査・研究事業を継続して進めるとともに、新庁舎歴史資料展示室の整備や恵解山古墳をはじめとする「乙訓古墳群」の保存・整備、未調査の歴史資料の収集・調査・保存などの具体的な取組みを着実に進めていきます。

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 69
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	総合型地域スポーツクラブ 推進事業		会計	款	項	34,657,154	文化・スポーツ 振興課
			一般	10	5		
事業の概要							
全小学校区で総合型地域スポーツクラブの設立を図ります。							


令和4年度の取組								
D (取組)	指標	総合型地域スポーツクラブの設立数					単位	小学校区
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6		7
	8(令和元年度)	目標	8	8	9	9		10
		実績	8	8				
<p>・コロナ禍においても地域スポーツの振興を図るために、本市のガイドラインに準じた感染対策ガイドラインを作成し、スポーツに親しむ行事等の実施を各校区に委託した。</p> <p>・長岡第九小学校において、開放センターの移設を行い、地域スポーツとしての拠点整備を行った。</p> <p>・総合型地域スポーツクラブ未設立地区に対しては、長岡京市総合型地域スポーツクラブ協議会や関係機関等と連携し、設立に向けての働きかけを継続しています。</p>						<p>市民スポーツフェスティバル(九小)</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価 令和4年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<p>・現在8つの校区で設立された総合型地域スポーツクラブを中心に、校区住民のスポーツ実施の機会拡大につながっています。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大により事業の制限がありましたが、感染対策を徹底しながら、可能な限り実施しました。</p>	186
	課題等	<p>・コロナ禍の影響により、外出する人の減少により地域スポーツの振興につなげることが困難な社会となっており、地域の絆や地域コミュニティの醸成が停滞しています。</p> <p>・未設立校区では総合型設立に向けた、組織の設立や実施意欲を高めるための活動が必要です。</p>			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
1: 計画通りに進めることが適当	<p>対応策等</p> <p>・地域スポーツが地域の絆や地域コミュニティの醸成・復活につながるよう、関係団体と調整・協議を行い感染対策を両立して、事業が実施できるよう検討・工夫を行っていきます。</p> <p>・未設立校区では総合型設立に向けて、引き続き、長岡京市スポーツ協会と連携協力しながら「核となる人や団体」の発掘育成を行い、総合型地域スポーツクラブの意義について啓発や、その必要性について理解を求めていきます。</p> <p>・既設立校区の総合型地域スポーツクラブに対しては、地域スポーツ振興の拠点となるクラブハウスの整備に向けて調整を行っていきます。</p> <p>・国が進めている「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」について慎重に検討していく必要があります。</p>

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 70
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	スポーツ交流推進事業		会計	款	項	18,961,757	文化・スポーツ振興課
			一般	10	5		
事業の概要							
<p>若葉カップ全国小学生バドミントン大会を通じ、競技力向上の機会と広域的な交流を深める機会を創出します。また、市民が身近な校区で運動・スポーツに親しめるよう、小中学校の体育施設を開放し、運動・スポーツのできる環境の確保に努めます。</p> <p>さらに、市民が地域で運動やスポーツに親しむ全市的なイベントを開催し、市民のスポーツ実施率を高めます。</p>							

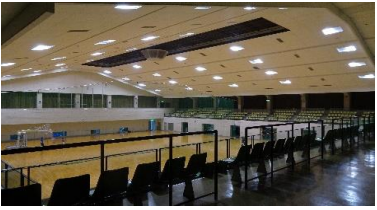
令和4年度の取組							
D (取組)	指標	学校開放・夜間照明利用件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	9,212(令和元年度)	目標	9,800	9,400	9,400	9,400	9,800
		実績	5,038	9,563			
<p>・関係者の安心安全を最優先とした感染予防対策を講じながら、多くの運営スタッフ、スポーツボランティアの協力のもと「第38回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」を開催しました。</p> <p>・コロナ禍において安全に市民が運動・スポーツに親しむ機会を提供するため、ガイドラインを作成し、感染症対策を徹底した上で、「市民スポーツフェスティバル」及び3年ぶりに「市民大運動会」を開催しました。</p> <p>・小中学校施設を開放し、学校開放事業及び夜間照明施設事業を行い、市民がスポーツを行う環境を提供しました。</p> <p>・地域スポーツの振興を図るため、スポーツに親しむ行事等の実施を各校区に委託しました。</p>						<p>市民大運動会(五小)</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		市民スポーツ実施率	年代別でみると、20歳代～40歳代の運動実施率が低く、若年層や働き盛り世代に対する運動・スポーツの機会や場の提供が求められま	186
C (評価)	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<p>・「第38回若葉カップ全国小学生バドミントン大会」では、無観客など平常とは異なる大会での開催となったため、デジタルプロモーション事業として、PR動画の作成、フォトライブラリー、試合のライブ配信等により、選手への思い出づくりやモチベーションの向上、本大会の魅力の世界に向け発信するなど初めてとなる取り組みを実施しました。</p> <p>・工事に伴い利用できない校区・期間がありましたが、学校開放・夜間照明利用件数は目標を上回る結果となりました。</p> <p>・半日開催や看護師の配置など感染対策を徹底して、3年ぶりに市民大運動会を開催し、市民がスポーツに親しむ機会となりました。</p> <p>・「市民スポーツフェスティバル」を各校区で開催しコロナ禍でもスポーツができる場を提供しました。</p>	
	課題等		<p>・スポーツイベントについて、市民のニーズに合わせて、どのように開催・復活していくかが課題となっています。</p> <p>・「若葉カップ全国小学生バドミントン大会」は、長年、全国のクラブチームが参加される大会として、本市で開催されていますが、より一層、市民や全国に認知されるように取り組む必要があります。</p> <p>・学校開放の利用者や「市民スポーツフェスティバル」の参加者が固定化しており、新たな利用者・参加者の増加が進んでいません。</p>	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<p>・地域の絆、地域コミュニティの醸成、復興につなげるため、「新しい生活様式」をスポーツに取り入れ、実施可能な市民スポーツの推進を図ります。</p> <p>・学校開放の利用者や「市民スポーツフェスティバル」等の参加者の固定化改善のために、住民ニーズにあわせたプログラムを考案するなど、少しでも多くの市民がスポーツに触れることができる環境が作れるよう検討します。</p>

分野	33	生涯学習・文化・スポーツ	通番 71
施策	333	スポーツの振興	
5年後の目標		心身の健康を保つため、運動・スポーツに親しみ、これを通じた交流を楽しんでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	スポーツ施設環境の整備		会計	款	項	目	155,990,220	文化・スポーツ 振興課
			一般	8	4	6		
			一般	10	5	2		
事業の概要								
スポーツ活動の拠点である西山公園体育館やスポーツセンターの適正な維持管理に努めながら、多くの市民がライフステージに応じたスポーツを楽しむことができるよう、市民スポーツ活動の充実を図ります。								

令和4年度の取組							
D (取組)	指標	体育館等施設利用者数(西山公園体育館・スポーツセンター)				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	268,232 (令和元年度)	目標	240,000	272,500	275,000	277,500	280,000
		実績	153,657	196,762			
<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進むなか、設備・備品の修繕や更新を適宜実施し、施設の維持管理に努めました。 新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインの見直しを適宜行い、利用者が安全・安心に施設を利用できるよう努めました。 						西山公園体育館	
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和4年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、利用者数が目標値を大きく下回っています。 西山公園体育館は、高架水槽の修繕を行いました。 スポーツセンターは、テニスコートの修繕を実施しました。 西山公園体育館、スポーツセンターの管理運営等について、指定管理者のスポーツ協会等と協議検討を行いました。 スポーツセンターの再整備について、関係部署と連携しながら、体育館機能の移転や現行施設の屋外機能の拡充など協議検討を行いました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 西山公園体育館及びスポーツセンターについては、老朽化する施設設備において、安全を最優先に、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行う必要があります。 スポーツセンターについては、再整備を進めていきます。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 西山公園体育館は、個別施設計画に基づく対応として最優先項目である館内のLED化をはじめ、緊急度に応じた設備の計画的な更新を行っていきます。 スポーツセンターは、当面必要となる施設の安全性の確保、機能維持に向けた対応を行いながら、関連部局とも連携協力して、体育館機能の移転等施設の再整備を行っていきます。